

嘉摩郡

筑前續風土記

卷之十一

和書門				
二九〇七〇	二九〇七〇	二九〇七〇	二九〇七〇	二九〇七〇
號	函	架	冊	類

和書			
二九〇七〇	二九〇七〇	二九〇七〇	二九〇七〇
號	冊	架	函

內閣文庫	
番號	和 29070
冊數	29 ( 11 )
函號	176 51



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



文庫部省

圖書部

圖書部

圖書部

内一〇二八二號

小嶽 西郷村 紅井村 鱒田 漆生村  
長野村 川瓜村 上下邑 赤坂  
野馬 芝村 宇津  
石村 音田 廣田 内河内  
大隈町 藤崎町 寺田 岩瀬 岩瀬寺

筑前國續風土記卷之十一

嘉摩郡 目錄

北斗社 大隈町 麟翁寺 岩瀧 岩根寺  
 兼大明神社 安國寺舊蹟 立石村 五尊羅漢 庄内 河内  
 山田 河内 猪鼻 栗野 馬見村<sup>馬見山</sup> 宇土浦山  
 千手 長野村 川底村 上下邑 牛隈  
 小嶽 西郷村 臼井村<sup>永泉寺</sup> 魁田 漆生村



そと分田川郷より往くあり三つ方大山あり中  
み大河内あり新林本庭一からと山林乃  
利多一田島北鏡なる村里皆山中より有て  
出民の風俗質外より好郷と云一

和名抄小裁り新嘉摩郡々々の名六つあり

草壁 三緒今も村の名あり大村 網別今も村の名あり馬見今も村の名あり

雄井今も村の名あり

今称より新此郷此村の名

鯨田 元吉 有井 大門 仁保

多田 有安 綱分 赤坂 山倉

入水 高倉 筒野 下山田 上山田

熊畑 宮吉 上 大隈 中益

下中益 下益 大隈町 上下 金月

牛隈 岩寄 山野 川鳩

已上二十九村 福岡領

秋月領二十六村

桑野本谷 小野谷 馬見 屏の推木

上西郷 下西郷 光代 上臼井 平原

平山 文田 九郎原 泉河内 猪麻

栗野 君カ畑 馬畑 瀬畑 檜畑  
大力 東千午 千午 長野 川底  
芥田

直方領十村田

下臼井 深生 鴨生 上三緒 下三緒  
立岩 佐与 口ノ原 麻毛馬 勢田

北丰社

下益村亦有此村と大深町に東なる此社に  
祭り示の神中殿を天沛中主と云ふ一と云ふ  
母伴特諾言伴特冊尊次命を祭り是天の心  
を奉と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふと  
少奉と云ふ別之九月九日祭礼有例不  
大なる楠樹あり周十三尋を中の空虛成  
所方二間餘有云う川不淑肉と云ふ八尋  
云くへ一 篤信ありて徳園多是建歴せしうた

いづれかかしの大本を足元唐北文海校抄といふ  
書に建寧北郡司有又代時樟木子霞中  
可致教席とあり是此本よりなり  
寛一帝有の古本に此材を録する人其愛り  
んを必そ大校風なりて折れりしを  
かくれりといふ又は是大隈村より  
是に法あり大楠有

大隈町

豊前猪俣と秋月此方東あり延吉り宿駅あり  
田圃多しありといふも民宅多し人較多し

此部より唐北町之祇園あり是唐北なり  
六月甲子日あり有他り山に中り大隈川を其下  
山形三楮は石上か飯塚の下行橋より飯塚川  
とすよ此部亦大隈町の東より近しかくあり  
く山嶺あり高しけしき一帯前此方一りなり  
大隈町より至る所境目は一里四所猪俣一里  
一里三平所有り大隈村を別より有る大隈所  
此部より西の村あり大隈町の中より下  
村貞月村あり其地を牛北隈村とす下隈村其  
下岩崎浦と山登り大隈より下此方なり

動れおや

麟翁寺 禅宗

中益村にあり大雄山と稱す長谷川の源は  
毛利祖馬此處に二万石あり一畝に一石あり  
後此寺に葬儀祖馬に追号と麟翁と云ふ  
寺此處にあり

岩瀧

中益村の山北側より前より有り岩間を  
小流り流す水流七尺許有る水の流来  
岩之高十間許横二尺許如大石なり  
一石ありく多色に岩泉飛瀑の有極いと  
流るる水は水流の微少なり後水  
の増えり時見ありく此滝の前は觀音堂  
あり圓通寺と云僧坊あり

岩根寺

大隈村に有る此寺岩根にあり山あり  
名と云ふ多し之觀音あり大隈河麟翁寺  
此寺あり此寺あり向ひく此處に有  
塔山の奇岩を觀覽するに人里遠  
く俗名此處あり







有堂字を考へし頃の時誰か他を考へし  
不知又しつ此村より多く失せし今三  
夏十許あるは是を考へし寺も考へし又考へし  
の例如く穴二あり是は氏信より信  
高登と云ふ宛中より石佛あり古く世和之  
片依の神ありしとて村中に古殿の跡有  
是は村民より文加部氏の古殿と云は  
氏と今の片依の古殿の氏ありし考へ  
し是を考へしと云ふし取ありし  
五石羅漢漢も  
考へし五石羅漢漢と云ふ考へし村中  
修善寺と云ふ寺ありし今を圍し考へし是  
五石羅漢漢司りし寺は名を考へし北に  
はく此人は氏よりし事考へしと記せし碑も  
ありし考へし是はしつ此時何人の考へしと  
云ふし考へし

庄内河内

當郡のいと東より有堂の地は北河内を  
考へし東方山は地隔てし一谷北中より考へ  
考へし小山は河内を考へし東より  
考へし山は河内を隔てし考へし

河内凡十三村有河平より南より延及佐与  
元吉大門有井仁保<sup>ホウ</sup>多田有安綱分山倉  
入水より倉赤飯同地なり是より南あり  
多田村の次なり十三村の田畠す人々  
亦多田村有り谷水も一流なり山倉入水此  
多田村より南此内より別より一の山谷や赤飯  
村の東の山よりありそと谷より赤飯此下  
め多田村内乃谷此取之筒地を以て上の地  
より筒地の上より山倉有りそと此と云は成致  
平村より延及は此河内なり此内より下流を

佐与村より南麻毛馬村多田村を以て多田郡仁保  
村の枝村を以て此より南大川より入流此内  
の東  
より南此内乃谷此取之筒地を以て上の地  
より筒地の上より山倉有りそと此と云は成致  
平村より延及は此河内なり此内より下流を  
佐与村より南麻毛馬村多田村を以て多田郡仁保  
村の枝村を以て此より南大川より入流此内  
の東  
より南此内乃谷此取之筒地を以て上の地  
より筒地の上より山倉有りそと此と云は成致  
平村より延及は此河内なり此内より下流を

山田河内

平村下山田上山田河内と云中山田村有  
是より下山田村の枝村より中山田の剣下笠  
寺と云く是より似きりうゆりしきい大寺たり  
上山田北谷のそく二十町と云然る畑と云取  
有山岡より然る山と云くむかへ然る山  
猪鼻

下山田村の内より上山田と中山田あり  
大隈より岩より猪鼻よりあり大隈ありそ  
東北方より猪鼻と云所有是猪鼻よりありて  
北谷ありや茶屋あり延宝の初年より立至  
此所三所許東より麓前あり北境より堀あり  
是次吉田の境堀より大隈町より此茶屋  
三平町此茶屋より岩より猪鼻一里あり

茶野

此郡の川と最南に有是遠賀川北流あり  
此村とある山の岩より中より中谷村小野谷村  
とてありありと云く茶野と云中谷を正流  
なり山麓を正流あり故より小野谷より  
中谷と云むくは山麓を中谷北谷村  
あり近代あり村と中谷のより山麓を教て

上三谷郡 小石原より初り其山欽と嘉入山欽と云山跡  
谷と此谷は此初の傍より小石原より山跡谷より  
中谷村へ廿里中谷より小石原へ一里半有本  
谷より大原町へ一里半あり中谷より大原町  
此谷有り山跡谷へも是は此跡法寺の山跡も  
そ村の産産也 葉野村を新境山の界初  
は新境山として有大石山と云ふは皆此山石  
付て産の山と云ふ 孫安岩也

馬見 馬見山

小石原谷の初山より有る各別より村の上より馬見山  
あり高山より此山甚く廣大なりて此山跡法寺也  
山より馬見大明神の社あり白馬大明神ともい  
いうあり神と云ふこと云事と云ふは此山跡法寺  
よりくくくく神と云ふ事と云ふは此山跡法寺  
毛の馬見甚いといふは此山跡法寺の山跡法寺  
其地より此山跡法寺の山跡法寺の山跡法寺  
此山の山跡法寺の山跡法寺の山跡法寺の山跡法寺  
山下は此山跡法寺の山跡法寺の山跡法寺の山跡法寺  
山跡法寺の山跡法寺の山跡法寺の山跡法寺の山跡法寺

宇土浦山

屏村より属して村志よりある山は此山よりありて  
流をり又一の山とも云ふ見山をば二の山と  
し之を何れも言ふ山は古前山を名づる一山  
一乃山とらるるは高起事馬見山より海  
されぬかへ

千手

村中千手寺あり是より依りて村は千手と  
あり千手観音也此寺山頂よりありて閑寂あり  
境地也之佛より石塔あり墨氏より之を

天智天皇の陵なり 天智天皇此山より嘉摩

郡を賜ふ事あり人天里此山より玉上塔  
是山よりありて御札も梵字ありて此山に  
見ゆされ久し記すの事なり此山人の  
墓所あり不審又千手所ありて宿禰あり  
長江公入國後より之より所あり凡此山より又  
河内有り千手川を下曰井村をて大隈川  
より長野川に應千手は一河内へ居り細の川  
を植波より出川素野河内より出川川を別  
大隈川ありて是中川より素野山田河内の

川を藩生より物多し深川より流れて河内  
川を鶴と部一麻毛鳥野田より出流

長野川庄

此庄村を子と村の川上吉取山北東北の下  
高紀所より下り里はるかに多く見よ敷地  
常の村居へ古所山をそく禁中を遠く  
新敷所も之を交領列て日御一りさ敷を  
人のありりあり子と川下を芥田村なり

上下村

近年此村の貧民次第と云者有知印して

父次夫の母より書りて又筆より一り家持  
契り一書きは母次書りて食を言ひ出く  
自乞兒と有り日よ小物を飯を炊きて母  
そよ炊煮ると洗ひ取納て後をく炊くと  
あぐりて物を乞言をはやく物して自炊き  
母よ信ふ夕へく此洗足の場合も悔なく自  
わくして先母よ洗りてむら目言て是を物  
時母食物を粥一洗足は湯をわく一並時を  
食を洗き載く食ひ是は湯を洗き載く  
洗よい事一の有ても一日二日の有母よ



病多し居り事一病し以て母を以て病多し食  
すくお者色はねれ此色もうまへ思ふまへに  
とちなりふ食す時く白銀者と拾ひ物うらりと  
えりくく病しりこむ性忠実なりて忠告する人あり  
所し以て是子決て乃忠告を以て所ありと村人も  
悲しむるなり此後母病し却りて次郎も又病  
し却りて母不食すまをて次郎も食すこも母病  
ありりて死し一病し次郎も亦病すよ病あり  
て母は後有る事七十行年亦七ありておけき  
死しあり是は実父の初事此事一は族氏之奉文章  
歎きし以て孝此を以て母は以て自其天性なりて  
至孝なり此の如し一十室此色も忠信の人  
ありしとまかしく此ありや今此を以て至孝此  
感し一歩控りて一して聊なま志ありしなり

牛隈

むらう一とよむ村の枝村より之和八年より別村  
とあり

小嶽

上印井村平山村のよよ有山名紀山一山上座を  
ししそ一我本志けし一山の形なりし

西ノ村

西ノ村は八天神あり其内丁五丈天神之先代村  
びりーら西ノの内より近代分村と云

臼井村

永泉寺

此寺秋月氏先祖松代の位牌あり元禄又年  
日向宗賊部の方主秋月依波守種松より其先祖  
のを乞ふ事起りて此寺より此寺の合子  
焚施りて法事と云りて焼香して物々又  
秋月氏山親言堂此と云秋月氏先祖松  
山も諸々焼点りて此山守り  
合子焚く物家

鯉田

此村は大河の東側より至り舟月之運漕の役  
りて此山と長谷のの時此山此村年人之房  
り至代り松代り此寺と云り曹洞宗の禪宗  
阿比美松山と稱せし是之之房と云り寺也  
之房り墓と云り此寺此やと云り園此より有るも  
此村氏より寺産を施せり

凍生村

宗祇指物物より凍川と云り此寺より

世傳云五所之くあり樂之流益郡より満川  
有之其志より以何處を是とせよや左軍府  
之を是れは流益郡より以何處を是とす之を是とす

其後何處を是とす今程より社有りて村民是  
とあり又此初河津村より河津院堂有り其堂永  
十比年の頃より是は佛堂ありて其後其堂  
日之より群集し其堂ありて其堂ありて  
其堂ありて其堂ありて其堂ありて其堂ありて  
其堂ありて其堂ありて其堂ありて其堂ありて

高田村 十三

此村田中より四中塚とて有いりあり塚あり  
や詳あり其昔より其堂ありて其堂ありて  
其堂ありて其堂ありて其堂ありて其堂ありて



内膳所青をある一、是長十七年長治公其家臣  
毛利恒為狀し、之、此地狀見せるあり、先師て  
町狀立し、せり、是先より飯塚(三里七町)迄  
那(山)あり、二里共一所、此是郡(越中)取の治水  
最上(一里十町)有り、根子岳と云高山有、竈門  
山は法(と)き、高(一)大根子、後現とて山上  
少中(一)籠(一)有、是神也、社あり、籠の(と)り  
又(と)文(と)り、内膳北谷の上(一)三(一)圓(一)山(と)て山  
中(一)三(一)の(一)村(一)有、是此郡(一)下(一)属(一)也、内膳(一)と(一)同(一)谷  
なり、内膳(一)より(一)是(一)山(一)あり、是(一)山(一)あり、是(一)山(一)あり、下

二所、平山、同上、治水あり、取有、古例ある、佛有  
是内膳村の境、内膳治水有、是(一)より(一)て(一)其  
た(一)り(一)け(一)状(一)治(一)水(一)状(一)と(一)り(一)ふ

山口村

此村内膳より北、方割の谷中、の(一)と(一)き(一)取(一)り  
有、谷中(一)せ(一)は(一)く(一)あ(一)山(一)せ(一)中(一)の(一)た(一)り(一)は(一)山(一)あり、  
山(一)と(一)云(一)首(一)の(一)系(一)上(一)の(一)山(一)あり、是(一)村(一)より(一)飯(一)塚(一)  
三里、宰府あり、三里、是(一)系(一)境(一)の(一)高(一)人(一)長(一)治(一)上  
以(一)は(一)宰(一)府(一)状(一)見(一)中(一)の(一)状(一)と(一)り(一)是(一)山(一)あり、是(一)山(一)あり

此村の山は葛谷と云ふ所有青と世所あり  
葛谷深谷馬交山の麓なり茶の山飲と山に  
村は馬交谷よりけ村をこし一里より近し是  
を平府と云ふ山は越て飯盛の方よりけり道  
へ平府及土間より都への大道也



馬  
敷邑

山は村北にあり上より馬交山とて下より茂山有  
村中の地は中徳有民俗云々少くは青天馬の死  
せし跡ありと云ふ石塔有世村山にの地は  
有溝谷なりと云ふ間十所あり

